犬養首相に面會し日本は速かに滿洲國を承認し國策の遂行に當られたい、と迫つたのであるが其時犬養首相は何と答へたか、現在政黨の目的は政權の獲得にあつて國策遂行の爲の政黨ではない、君達からして政黨の存在意義の間違つて居ることを國民に訴へて貰ひたいと犬養氏獨特の皮肉で答へられた。政黨は政權の獲得のみを事とし國家國民を蹴倒す事は何とも思つてゐない。

昭和七年五月十五日に斃れた、犬養首相のこの言葉は吾國民に對する遺言であつた。次に頭山滿翁を訪問した、之は政友會の幹部が床次さんを奇めてゐたのでこの立派な人である床次さんを犬養内閣から出さゝない樣に首相に話をして貰き度いとお願ひしたのであるが頭山翁曰く現在の政黨から憎くなれるのは光榮ぢやないか、ほつといた方がよか

財團法人 協調會福岡出張所

らう、此の翁の一事を見ても多言を費せず政黨の如何なものかを知る事が出來る。次に南大將を訪問したのであるが之は私が北支那に行く關係で北支の排日、排貨の緩和上大將の力を借りたいと思ひ伺つたのであるが其時の御話に滿洲を獨立せしめる事に最も恐れるものは日本の財閥である政黨と財閥の關係を國民に披瀝し軍部の背後を守り國家に盡されたいと三時間に亘つて御話を承つた、

この國家現狀に對して明倫會は起つたのである。已の至誠を盡して外に當り明朗なる國家とせよ。

4、座長推薦（司會者一任）

座長　陸軍少將　西原亀三

5、經過報告　坂本隆次說明

昨年七月三日縣公會堂で第一回の演說會をやつた、當時會

財團法人 協調會福岡出張所